



特定非営利活動法人

東京学芸大こども未来研究所

Tokyo Gakugei Univ. Children Institute for the Future



TECH未来通信

VOL.056
Irregularly Magazine
2024.February



〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学内20周年記念飯島同窓会館1階
042-316-6645 ✉info@techmirai.jp

TECH未来を使ってきた先生方(その36)

島根県でのTECH未来

今回は、松江市立義務教育学校玉湯学園 瀬崎邦博(せざきくにひろ)先生にお話を伺いました。

瀬崎先生は、今年度の中国四国地区技術家庭科研究会の公開授業にてTECH未来をご活用くださいました!



— 教員歴何年目ですか？
34年目です。

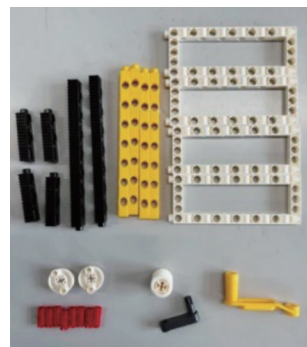
— TECH未来を使用して何年目ですか？
2年目です。玉湯学園に着任してから使い始めました。

— 中国四国地区技術家庭科研究会の公開授業では、どのような授業を実践されましたか？

今回の授業では、「高齢者が暮らしの中で困っていること」をテーマに取り上げ、高齢者が暮らしの中で困難さを感じる動作に着目し、サポートする製作品をTECH未来BASICと追加部品を使い、グループごとに企画・製作しました。グループで試作した製作品について、発表し、評価やアドバイスもらい、もらったアドバイス・評価をもとに、改善点を検討しました。基本を学ぶ段階で、回転運動を伝える仕組みとリンク機

構について一人一人自分の手で作り、動かしましたことで知識を感覚的に理解できたと思います。

TECH未来の教材は部品が大きく扱いやすいつくりになっており、簡単に目的の機構を作り出すことができます。様々な回転運動を伝える仕組みとリンク機構で、動きを伝える仕組みを組み合わせた製作品を作り出すことができ、生徒が短時間で試行錯誤し、課題解決に迫ることができたと感じています。



— 最後に一言!

TECH未来に追加部品を加えることで、回転運動を伝える仕組みやリンク機構の学習を生かした授業を行うことができると実感しました。

また、本校では、「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決」において、プログラミング言語のスモウルビーを活用して学習をしています。今後、TECH未来とスモウルビーを利用した「計測・制御のプログラミングによる問題の解決」の授業に取り組んでみたいと思います。

編集後記

このたびは公開授業での実践ありがとうございます!今後ともよろしくお願いいたします!